

視点(1485)

概文:日本の失われた20年は、実は成熟国家のモデル経済!!

日本経済が1991年にバブル崩壊して、日本経済は20年間GDPが成長していません。しかも、政治・経済、金融、社会動向において日本は閉塞感経済の状況にあります。この経済現象を「日本経済の失われた20年」と呼び、世界経済の中で、日本のみが成長から取り残され、日本固有の経済病と位置づけられていました。

ところが、アメリカのバブル経済崩壊及びEUの金融危機により、アメリカやEUの先進国経済が、実はGDPによるリアル経済(実体経済)ではなく、金融によるバーチャル経済(虚体経済)による成長であったことが金融経済のバブル崩壊によって明らかになってきました。

アメリカ経済は、1971年のニクソンショック(金本位制の廃止)により、ドルを基軸とするリアル経済体制が崩壊し、その後アメリカ経済は生産機能の海外進出、モダン消費の終焉により大不況になりました。しかし1993年からIT産業による奇跡的な経済復興(今まで世界になかったモノではなく情報産業による経済復興)により経済が回復し、そのIT産業というリアル経済に株式上場を中心とした金融証券取引のバーチャル経済が、リアル経済の何倍もの規模で流通し、やがて2000年にIT産業のバブル崩壊が起きました。さらに、IT産業のバブル崩壊後に、景気向上策として不動産を内需経済として復興させ、不動産産業のリアル経済が活発化すると、デリバティブ(金融派生商品)取引のバーチャル経済がリアル経済の何倍もの規模で流通し、やがて2007年のサブプライムローン、2008年のリーマンショック、さらに2009年～現在までのアメリカのバーチャル経済に便乗したEUバブル崩壊に基づく金融危機を招いています。それゆえに、今後アメリカとEU諸国の「日本化」が始まると言われています。

実は、日本の失われた20年はバーチャル経済ではないリアル経済、すなわちGDP指標に基づく**実体経済を正しく表現している経済の「姿」**だったのです。経済は発展段階により「後進国」から「発展途上国」、さらに「新興国」「先進国」へと進みます。

先進国においても「モダン消費が大発展している高成長時期」(所得が8~15%、物価が6~8%上昇する時代。日本では1961~1970年まで)を「**先進国・第1期の時代**」と言います。さらに「経済成長は相対的に高いが安定した所得と物価の経済発展の時期」(日本では1971~1990年)を「**先進国・第2期の時代**」と言います。さらに「モダン消費が崩壊し、かつ経済が低成長、場合によってはマイナス成長の時期」(日本では1991~2010年)を「**先進国・第3期の時代**」と言い、この先進国・第3期の時代を「**成熟経済時代**」(今後の展開を考えると成熟経済時代・第1期)とも呼びます(六車流:流通理論)。

先進国・第2期の時代から先進国・第3期の時代への移行、すなわち成熟経済になる時に必ず「経済のバブル崩壊」が起きます。先進国・第1期はリアル経済で成長し、その後先進国・第2期はバーチャル経済が浸透し、そのバーチャル経済が崩壊した後に、また実体経済であるリアル経済基軸の時代に原典帰ります。

今、日本はゼロ経済成長、モノ離れしたポストモダン消費、デフレ経済、少子高齢化、社会主義政策による財政赤字、高国債依存、小売業の売上減少、失業率の向上…等の経済現象が起こっています。

実は、この日本の失われた20年間の経済現象は、先進国・第3期である成熟経済に必然的に起こるものであることが判明してきました。このように考えると、日本は世界の先進国(アメリカやEU)のモデルとなる経済現象が日本の過去20年間に起こり、そして日本は、悪戦苦闘して課題を解決しようとしています。日本の行動は、**実は世界の未来の経済社会を模索している段階で、最先端の経済を正につくりあげようとしている姿**なのです。日はまた昇る・日本の時代は間近です!! 2011年以降は成熟時代の模索から次の段階のニューモダン消費経済による成果を出す時代です。がんばりましょう!!

(株)ダイナミックマーケティング社⁵
代表 六 軍 秀 之